

広島県西部におけるヤマセミの繁殖状況

上野 吉雄^{1*}・石井 秀雄¹・今村 守¹・佐藤 亜紗²・本宮 宏美²・本宮 芳太郎²・牟田 佳代子²・石川 聡²・
石川 千歳²・上野 柚稀³・竹内 史⁴・斉藤 裕子⁵・山本 和彦⁵・能城 光秀⁶・前田 要⁷

¹ 認定 NPO 法人西中国山地自然史研究会・² NPO 法人三段峡—太田川流域研究会・³ 広島大学総合科学部・
⁴ 広島大学理学部・⁵ 日本野鳥の会広島県支部・⁶ 安芸郡海田町蟹原・⁷ 広島市安佐北区鈴張

The Breeding status of Crested Kingfisher *Megaceryle lugubris* in Western Hiroshima Prefecture

Yoshio UENO, Hideo ISHII, Mamoru IMAMURA, Asa SATO, Hiromi HONGU, Yoshitaro HONGU, Kayoko MUTA,
Satoshi ISHIKAWA, Chitose Ishikawa, Yuzuki UENO, Fumito TAKEUCHI, Yuko SAITO, Kazuhiko YAMAMOTO,
Mitsuhide NOSHIRO and Kaname MAEDA

はじめに

ヤマセミ *Megaceryle lugubris* はインドシナ半島北部，中国南部，朝鮮半島，日本に分布し，亜種ヤマセミ *Megaceryle lugubris lugubris* は本州，四国，九州，屋久島，種子島に分布している（日本鳥学会 2012）。中国地方では近年，減少傾向にあり，広島県により絶滅危惧Ⅱ類に（広島県 2022），島根県により絶滅危惧Ⅱ類に（島根県 2014），鳥取県により絶滅危惧Ⅱ類に（鳥取県 2023），岡山県により絶滅危惧Ⅱ類に（岡山県 2020），山口県により絶滅危惧Ⅱ類に（山口県 2019）選定されている。

筆者らは，2023 年の繁殖期に，広島県山県郡北広島町と広島市においてヤマセミの営巣環境について調査したので報告する。

調査地

調査地は広島県西部の北広島町と広島市の太田川水系と江の川水系の上流域，標高約 300 m から約 600 m にかけての農耕地帯である。

方法

調査は 2023 年 2 月から 6 月まで行った。巣の観察は，調査担当者が 2 月から 6 月にかけて，のべ 39 日，造巣，抱卵，育雛，巣立ちについて記録した。観察は倍率 8 倍の双眼鏡または 20 倍の望遠鏡を用い，必要に応じて写真撮影を行った。

北広島町今吉田の 2023 年以前と 2023 年の巣穴の計測は地権者の承諾を得て 2023 年 6 月 25 日に行った。内視鏡で巣穴の内部を映像で確認しながら奥行きを計測した。横幅や高さはパイプに巻尺を通し，巻尺の先が 90 度に曲がる器具を考案し，計測した。細かい形状の把握は出来なかったが，過去の資料を参考に形状を予測した。

結果

1. 営巣確認地点

2023年2月から6月にかけての調査で確認された広島市と北広島町におけるヤマセミの営巣地について図1に示す。今回の調査でヤマセミの営巣を確認した地点は、北広島町長者原、北広島町杉谷、北広島町志路原、北広島町岩戸、北広島町有田、北広島町壬生、北広島町長笹、北広島町今吉田、広島市安佐南区戸山、広島市安佐北区久地の10か所であった。

以下に各確認地点で最初に確認した日時と状況を示す。

1. 北広島町長者原	2023年2月25日	成鳥1羽の巣穴掘りを確認
2. 北広島町杉谷	2023年3月15日	巣穴の周辺で成鳥2羽を確認
3. 北広島町志路原	2023年5月25日	巣穴の周辺で成鳥1羽を確認
4. 北広島町岩戸	2023年6月19日	巣穴の周辺で成鳥1羽を確認
5. 北広島町有田	2023年3月20日	巣穴の周辺で成鳥2羽を確認
6. 北広島町壬生	2023年6月15日	餌を運ぶ成鳥1羽を確認
7. 北広島町長笹	2023年5月12日	巣穴の周辺で成鳥1羽を確認
8. 北広島町今吉田	2023年5月21日	餌を運ぶ成鳥2羽を確認
9. 広島市安佐南区戸山	2023年3月25日	巣穴の周辺でヤマセミを確認
10. 広島市安佐北区久地	2023年3月26日	成鳥1羽の巣穴への出入りを確認

2. 各営巣地における巣穴の観察記録

長者原では、2月25日に巣穴掘りを確認し、3月7日に巣穴から成鳥1羽が飛び出すのを確認し、3月9日に融雪による増水のため、巣穴が冠水し、4月16日に再び、巣穴掘りをしているのを確認し、5月30日にはヤマセミを確認することができなかった。5月29日に終日、巣穴の前で2名が終日釣りをしていたので、放棄したようである。6月13日にヤマセミのつがいは巣穴から約5m離れた場所まで来たが、巣穴には入らなかった(図版

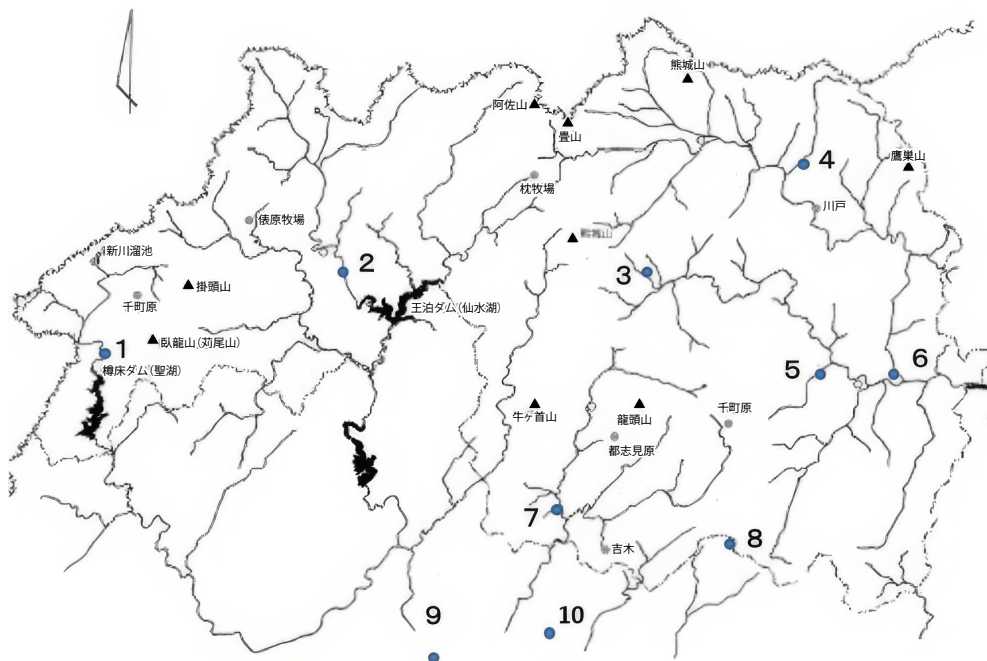


図1 ヤマセミの営巣地

1-A).

杉谷では、3月15日に巣穴から約10m離れた場所で2羽の成鳥を確認し、3月24日に巣穴から約10m離れた場所で成鳥1羽を確認し、5月30日に観察したが、ヤマセミを確認することはできなかった(図版1-B)。

志路原では、5月25日に巣穴に出入りする成鳥を確認し、6月1日に巣穴の周囲を飛翔する幼鳥3羽と成鳥2羽を確認し、6月2日に成鳥1羽を巣穴から約10m離れた場所で確認し、6月9日に成鳥とヒナ1羽の巣立ちを確認し、6月10日に成鳥を巣穴から約10m離れた場所で確認し、6月11日に成鳥と巣立ち直後のヒナを確認した。6月1日の最初の巣立ち確認で幼鳥3羽と成鳥2羽の計5羽を確認してから、6月11日までの長い巣立ち期間であった。巣立ち後のヒナは数時間から半日たつと、成鳥と共に下流域に移動して姿を見せなかった。(図版1-C)。

岩戸では、6月19日にヤマセミが巣穴から約10m離れた場所にいるのを確認した(図版1-D)。

有田では、3月20日に成鳥2羽を確認し、6月15日にオスが巣穴に餌を運んでいるのを確認し、6月19日10時頃にヒナ1羽が巣立つのを確認し、18時頃に巣穴から顔を出すヒナを確認した。6月15, 17, 19日の3日間の観察では、メスが巣穴の近くで見張り、オスが給餌していた(図版1-E)。

壬生では、6月15日に巣穴に餌を運ぶ成鳥1羽を確認した(図版1-F)。

長笹では、5月12日に巣穴のそばで成鳥1羽を確認し、5月14日に成鳥2羽を確認し、巣穴への出入りを確認し、5月17日に成鳥を確認し、5月19日に成鳥を確認した。(図版2-A)。

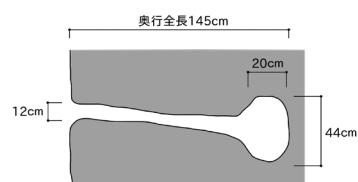
今吉田では、5月21日に給餌する成鳥を確認し、5月28日に巣立ちを促す行動を確認した。育雛後期にはカワムツ *Nipponocypris temminckii*、ドンコ *Odontobutis obscurus*、サツキマス *Oncorhynchus masou ishikawae*などを給餌していた(図版2-B, E)。また、6月25日に巣穴を計測した(図2)。巣穴の奥行全長は、2023年のものが145cm。2023年以前の巣穴は178cmであり、かなり深いものであった。さらに横幅44cmの産室も造られていた。

戸山では、3月25日に成鳥2羽が古巣穴に出入りするのを確認し、4月2日に成鳥1羽が巣穴から約10m離れた場所で見張っているのを確認し、5月27日に1羽が餌運びをするのを確認し、6月3日、4日には巣穴の周辺でヤマセミを確認できなかった。(図版2-C)。

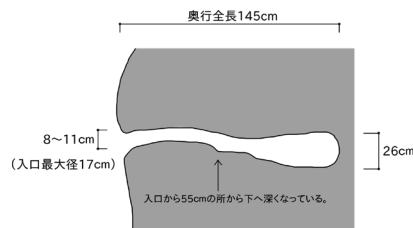
久地では、3月26日に成鳥1羽が古巣穴に出入りするのを確認し、4月2日にオスの見張り行動を確認し、5月27日に1羽の餌運びを確認し、6月3, 4日には巣穴の周辺でヤマセミを確認できなかった。(図版2-D)。

<2023年に使用していた巣穴>

①上から見た図

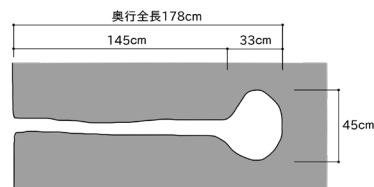


②横から見た図



<2023年より前につくられた巣穴>

①上から見た図



②横から見た図

計測不能

図2 今吉田の巣穴

考察

10ヶ所の営巣地のうちヒナの巣立ちを確認できたのは、有田、志路原、今吉田の3ヶ所である。巣立ち間近の育雛を確認し、ヒナが巣立ったと思われるのが、岩戸、壬生、長笹、戸山、久地の5ヶ所である。繁殖に失敗したのは長者原と杉谷の2ヶ所である。

今吉田の巣穴では2021年は6月21日に1羽、22日に3羽のヒナの巣立ちを確認しており（上野ほか2022）、2023年は2021年より20日早い巣立ちであった。巣穴の奥行全長は、2023年のものが145 cm。2023年以前のは178 cmであり、かなり深いものであった。この値は神奈川県における奥行全長140 cmとほぼ同様であった（神保1997）。ヤマセミが巣穴とする崖はかなり奥まで掘り進むことが出来る土質を必要とし、巣穴を掘りかけて中止した巣穴が多く見られるのは、途中に岩石などが存在し、掘り進むことができなかったと考えられる。

近年のヤマセミの急激な減少の要因としては、営巣崖の不足が考えられる。ヒナの巣立ちを確認した、有田、志路原、今吉田は北広島町千代田地区と豊平地区にあり、ヒナが巣立ったと思われる岩戸、壬生、長笹、戸山、久地は北広島町大朝地域、千代田地域、豊平地域、広島市安佐南区、広島市安佐北区にある。これらの地域には山の斜面を削った真砂土の大きな切土が数多く見られた。それに対して、繁殖に失敗した長者原、杉谷のある北広島町芸北地域には大きな崖が見られなかった。同様に、近隣の廿日市市吉和地域や安芸太田町においても大きな崖が見られず、ヤマセミの繁殖を確認することが出来なかった。

今回の調査により、ヤマセミの繁殖場所として、山の斜面を削った真砂土の大きな切土が必要であることが明らかになった。

今後、広島県西部におけるヤマセミの繁殖状況を注意深く見守るとともに、営巣場所となる切土の確保などの対策の検討が必要である。

謝辞

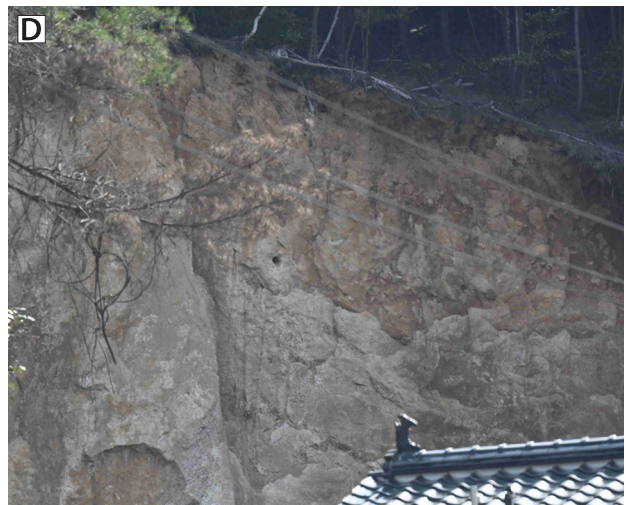
本調査を行うにあたり、本調査にご協力いただいた本宮 炎理事長をはじめとするNPO法人三段峡―太田川流域研究会の方々、南葉鍊志郎部長をはじめとする広大さんけん部の方々、また、今吉田のヤマセミの繁殖状況について情報をいただいた麻生貞之氏、佐々木正氏、杉谷の情報をいただいた河野元八氏、今村洋子氏に心からお礼を申し上げる。本調査は「サントリー世界愛鳥基金」の助成を受けたものである。

引用文献

- 山口県（2019）レッドデータブックやまぐち2019 ―山口県の絶滅のおそれのある野生生物―，山口県
- 岡山県（2020）岡山県版レッドデータブック2020 ―絶滅のおそれのある野生生物―，93 岡山県
- 島根県（2014）改訂・しまねレッドデータブック2014 動物編―島根県の絶滅のおそれのある野生動物―，島根県
- 日本鳥学会（2012）日本鳥類目録 改訂第7版．日本鳥学会，三田
- 広島県（2022）広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第4版）―レッドデータブックひろしま2021―，広島県
- 鳥取県（2023）レッドデータブックとっとり第3版2022 ―鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物―，鳥取県
- 上野 吉雄・石井 秀雄・茶村 真一郎・斉藤 裕子・能城 光秀・麻生 貞之・前田 要・桑野 修（2022）広島県北広島町におけるヤマセミの繁殖状況．高原の自然史，22：1-5
- 神保 賢一路（1997）ヤマセミの暮らし．183pp．文一総合出版，東京



A. 長者原の営巣地	2023 年 6 月 13 日
B. 杉谷の営巣地	2023 年 5 月 30 日
C. 岩戸の営巣地	2023 年 6 月 19 日
D. 有田の営巣地	2023 年 6 月 12 日
E. 壬生の営巣地	2023 年 6 月 19 日
F. 志路原の営巣地	2023 年 6 月 19 日



-
- | | |
|------------|-----------------|
| A. 長笹の営巣地 | 2023 年 6 月 19 日 |
| B. 今吉田の営巣地 | 2023 年 6 月 25 日 |
| C. 戸山の営巣地 | 2023 年 4 月 22 日 |
| D. 久地の営巣地 | 2023 年 4 月 22 日 |
| E. 餌を運ぶつがい | 2023 年 5 月 28 日 |